

北陸地方整備局入札監視委員会（第一部会第3回定例会議） 審議概要

開催日 及び場所	令和元年１２月６日（金） 北陸地方整備局（新潟市中央区美咲町1-1-1）						
委員 (部会委員 ５名)	部 会 長 大川 秀雄（新潟工科大学 学長） 部会長代理 細山田得三（長岡技術科学大学 教授 環境社会基盤工学専攻） 委 員 上村 都（新潟大学 法学部 教授） 委 員 佐藤 綾子（富山国際大学 現代社会学部 准教授） 委 員 平石 広佳（弁護士）						
審 議 対象期間	令和元年７月１日～令和元年９月３０日						
報告事項	１ 入札・契約手続の運用状況について (1) 工事、建設コンサルタント業務等、役務の提供等及び物品の製造等の発注状況 (2) 指名停止等の運用状況 (3) 入札談合に関する情報等への対応状況 (4) 再度入札における一位不調状況 (5) 低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況 (6) 一者応札の発生状況 (7) 不調・不落の発生状況 (8) 高落札率の発生状況 (9) 有資格業者登録状況						
審議事項	２ 抽出事案８件（工事５件、建設コンサルタント業務等２件、役務及び物品１件）						
	契約方式	件 名	契約業者名	契約年月日	契約金額 (千円)	入札 者数	
	工 事	一般競争入札方式（政府 調達に関する協定適用対 象工事以外）	海老江河道掘削その１０他工事	（株）小池組	R1.9.24	146,850	2
			竜光護岸改築その２工事	伊米ヶ崎建設（株）	R1.8.29	82,060	2
			国道１７号五十嵐入口交差点改良そ の２工事	（株）文明屋	R1.9.3	100,650	2
		建明寮２回耐震改修工事	（株）廣瀬	R1.8.6	166,870	2	
	随意契約方式	大池川応急復旧工事	伊米ヶ崎建設（株）	R1.8.28	4,698	1	
建設コンサル tant業務等	簡易公募型競争入札方式 （総合評価）	令和元年度弥陀ヶ原火山航空レー ザ計測業務	アジア航測（株）	R1.7.10	22,308	5	
	簡易公募型プロポーザル 方式	令和元年度信濃川上流域における 土砂洪水氾濫対策検討業務	（株）東京建設コンサル タント	R1.7.22	29.986	1	
役務の提供等及 び物品の製造等	随意契約方式	「妙高大橋架替下部その４工事」 施工現場における品質管理の高度 化等を図る技術の試行業務	清水建設（株）	R1.8.27	37,391	1	
委員からの意見質問、それに対する回答等			別紙のとおり				
委員会による意見の具申又は勧告の内容			特になし				
（備 考）	次回定例会議を令和２年３月１０日（火）に決定						

意見・質問	回答
1 入札・契約手続きの運用状況について (1) 工事、建設コンサルタント業務等、役務の提供等及び物品の製造等の発注状況 ・工事の総契約件数が前年の1.5倍とお聞きしましたが、これは一時的な要因なのか、環境要因として今後もこの高水準が続くのかということと、それに対応して1者応札も前年より多くなっているが、資料9では有資格業者数が減っている一方で、需要が拡大しており、これから1社応札が増えるような、環境要因によるものなのか、特定の一時的要因があるのかをお聞かせ願いたい。 ・役務の提供及び物品の契約では、毎回落札率が低い案件が結構見られると思うが、参加を表明した1者の見積もりを基に予定価格を決めるというのは、よく行われていることなのかということと、落札率が低くなるということは、予定価格の決め方が工事等とは違うとか、どういうことが要因となっているのかをお聞きしたい。 ・工事とは異なり色んな業務があって積算がしづらいというところが、予定価格の決め方としては、違うところですか。 ・落札率が低くなる要因は、どのようなところにあるのか。予定価格の決め方によるのか。	・契約件数が1.5倍になっていることについては、本年度予算に防災減災国土強靱化の予算が付いており、予算規模ではだいたい1.3倍となっている。特に第2四半期では、除雪工事の案件で1者応札が見受けられ、それを差し引くと例年と比較しても、極端に増えているとは考えていない。 ・見積もりについては、基本的に複数者から徴収している。見積もりを活用して予定価格を作成しているが、応札に際してかなり低いものもある。役務の場合は、そういうケースが見受けられる場合もある。 ・役務の場合は、積算基準にないものが多く、かなりの部分を見積もり活用している。 ・はっきりと分からないところがあり、事前に見積もりを取っていても、予定価格の半分か程度の価格で応札されるケースもある。
(2) 指名停止等の運用状況 ・2回続けて指名停止となっている業者がおり、1回目と2回目の間に数日空いているが、この間に受注することはできるのか。	・入札公告の中で、競争参加資格の申請書の提出期限の日から開札の時までに、指名停止の措置を受けていないこと、という条件がついており、多くはその条件に該当するのではないと思う。

別紙 委員からの意見・質問、それに対する回答等（第一部会第3回定例会議）

意 見 ・ 質 問	回 答
(3) 入札談合に関する情報等への対応状況 ・特になし。	
(4) 再度入札における一位不働状況 ・特になし。	
(5) 低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況 ・特になし。	
(6) 一者応札の発生状況 ・特になし。	
(7) 不調・不落の発生状況 ・特になし。	
(8) 高落札率の発生状況 ・特になし。	
(9) 有資格業者登録状況 ・特になし。	

意 見 ・ 質 問	回 答
2 抽出事案の審議について (工 事) 1 一般競争入札方式 (政府調達に関する協定適用対象工事以外) 「海老江河道掘削その10他工事」 ・特になし。	
「竜光護岸改築その2工事」 ・総合評価概要の企業の施工能力等で、評価項目⑦の括弧書きを見ると細かく項目が書いているが、一方で表彰系の点数配分が多いので、ここで絞り込みにつながっている場合、その背景などあれば教えていただきたい。 ・総合評価概要の入札状況のところで、資料を入手した者が32者で、資格を満たす者が10者しかないということで、少ないという印象を受けるが、どの辺の要件で絞り込まれて10者になったのかを教えてください。	・評価項目⑦については、政策的な要素が含まれた項目で、地元企業の活用、基幹技能者の活用、若手女性技術者配置について積極的な企業に加点しています。評価項目⑨については、技術力を高める目的で優良工事表彰・技術者表彰を毎年実施し、表彰を受けた者にインセンティブを与えています。 ・資料を入手した者が32者については、パソコン上から入札関係の資料を見たり、ダウンロードすることができるが、そのダウンロードした者が32者ということである。これは競争参加資格を持っている、いないにかかわらず、ダウンロードした者が32者だったということである。資格を満たす者が10者については、この工事の同種工事の実績は、ブロック設置を主なものとしているので、ブロックの設置を含むもの、あとはもう少し参加要件を広げるということで、ブロックの設置は含まないけれども一般的な砂防堰堤工事の実績があり、かつ、魚沼地域振興局に店舗を有する業者数ということで、10者ということである。
「国道17号五十嵐入口交差点改良その2工事」 ・特になし。	
「建明寮2回耐震改修工事」 ・総合評価概要で落札者の評価点が19点と非常に低くて、その要因がおそらく工事成績だと思うが、これは単純に北陸地方整備局での実績がないから0点になったのであって、同種工事の実績自体は管内以外であったという理解でよろしいか。	・そのとおりである。同種工事については、国土交通省が発注した工事と縛ってはいないので、本件については新潟市の実績があり、工事成績については、北陸地方整備局が発注した工事ということで縛っているが、そちらの方は実績がなかったということで0点になっている。

意見・質問	回答
・入札調書について伺うが、3者のうち1者が不参加となっているが、不参加というのは札を入れなかったということか、また不参加になった理由がわかれば教えていただきたい。	・不参加というのは、札を入れなかったということである。不参加の理由については、実際確認をしたということはないので、分からない。
2 随意契約方式 「大池川応急復旧工事」 ・本件というよりも全体的な考え方について教えていただきたいが、随意契約という枠組みで、業者さんはどういうタイムスケジュールの中で、作業を行っていくのかを教えていただきたい。 ・業者さんとしてもどのようにやれば良いのかとか、本当に現場で何かおこったときには、躊躇する面もあると思うが、費用面等はどのような考え方になるのか。 ・最初の協定書を結ぶ段階では一般的な競争入札をするということか。今回は協定に基づいた随意契約ということだが、どのように協定の相手方を選ぶのかを教えていただきたい。 ・競争入札ではなく、公募して期間中に応募した中でランク付けをして、その段階でだいたい価格もこれくらいでできるみたいなものも含めた形で、ランク付けするのか。	・今回の大池川の案件は、あらかじめ協定を結んでおり、堤防が欠損したり、応急復旧など、要請があったら直ぐ出動していただくということで、管内河川の事務所は同様に協定を結んでいる。ただ、千曲川の破堤のように、大規模災害の場合、たとえば日建連、県の建設業協会、コンサルタント協会等と本局があらかじめ協定を結んでいて、災害時に協会に派遣をお願いして、協会から推薦された者と随意契約を締結し、応急復旧工事や調査を実施していただいている。 ・緊急時の作業であり、資機材の調達、24時間施工などあらゆる条件が通常と異なることから、見積もりで精算することが一般的である。 ・あらかじめ、参加要件資格を公告し、その条件に基づいて公募している。応募された方から手持ちの作業員が何名以上いるだとか、手持ちの機械がどれくらいあるとか、ということをランク付けした形で協定を結んでいる。 ・この時点では、工事の内容は全く示していないので、先ほど申しましたように、実際にやっていただいた作業の見積もりを出していただいて、契約するという事になる。
(建設コンサルタント業務等) 1 簡易公募型競争入札方式(総合評価) 「令和元年度弥陀ヶ原火山航空レーザ計測業務」 ・特になし。	

意 見 ・ 質 問	回 答
2 簡易公募型プロポーザル方式 「令和元年度信濃川上流域における土砂洪水氾濫対策検討業務」 ・特になし。	
(役務の提供等及び物品の製造等) 1 随意契約方式 「「妙高大橋架替下部その4工事」施工現場における品質管理の高度化等を図る技術の試行業務」 ・対象技術として国土交通本省で選定されていたということで、各整備局がこの試行業務を行って、各整備局の結果報告を取りまとめて、今後それを使っていくかどうかを決めるという位置付けか。 ・北陸地方整備局が、この技術を使った業務があったので、これを使ってみたということか。 ・発注者側からすると、お金が安くなる技術を開発しているという印象は受けるのか。 ・前例がない業務なので、コンクリートブロックを作るとかそういうものでないので、相場観がないと思うので、どういう風にお考えになるのかをお聞かせ願いたい。	・本案件の技術を各整備局でやっているわけではなく、全国各地色々な新技術が上がってきている。その検証を行い、使えるということになれば広く普及されることになるという、今そういった技術を公募したということである。 ・この妙高の現場を落札された業者が、自社でこのシステムを開発して、その実証実験のフィールドとして、今回北陸のこの現場でやりたいということで、手を上げられたということである。 ・作業の効率化というところを目指しているので、人も少なくなってきますし、生産性向上というためには、こういうシステムA Iを使ったものや、I C Tということで国交省としても推進しているが、そういったものを進めていって、お金というより全体的に生産性を上げるというところをめざしている。 ・I C Tを進めるためには、初期投資はかかると思う。ただし、今後、働き手が大幅に減っていくので、どうしても建設現場を回すためには、人を削減する技術に取り組まなければならない。相場観は良く分からないところはあるが、やらなければならないことだと考えている。